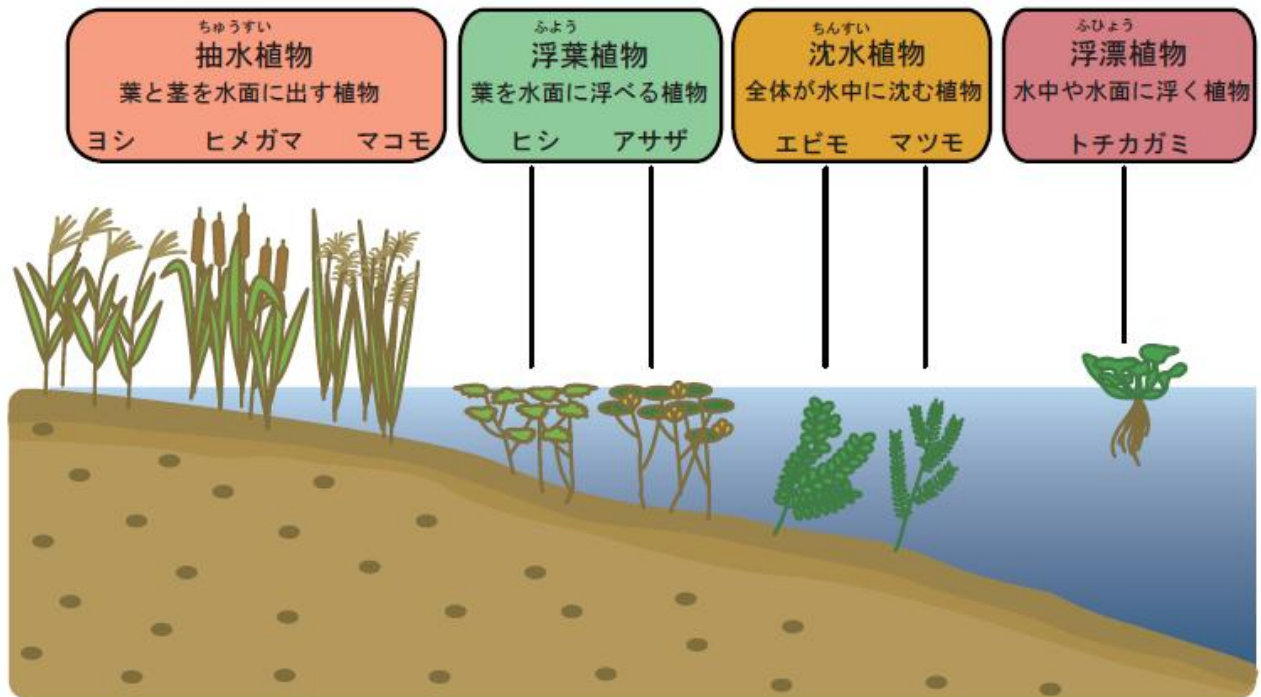


# 霞ヶ浦の植物

年 組 番  
名前

## 水生植物

湖 や川の中やそのまわりの湿地に生えている植物を水生植物とよびます。水生植物は、生活の様子や生育場所によって、次のように分けられます。



抽水植物は、水の底の土の中に根をはり、くきや葉を水面上に出す植物をいいます。ヨシ、コガマ、マコモ、ミクリなどがその代表です。

浮葉植物は、ヒシやアサザのように水の底に根があり、葉を水面に浮かべる植物です。

沈水植物は、エビモやマツモのように、くきや葉がすべて水面下にしずんでいる植物を指します。

浮漂植物は、植物の根が土の中にはえず、うきただよっている植物で、トチカガミやウキクサな仲間などがあります。

● 水生植物



ヨシ



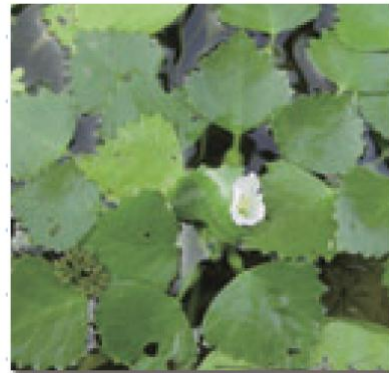
コガマ



マコモ



ミクリ



ヒシ



アサザ



マツモ

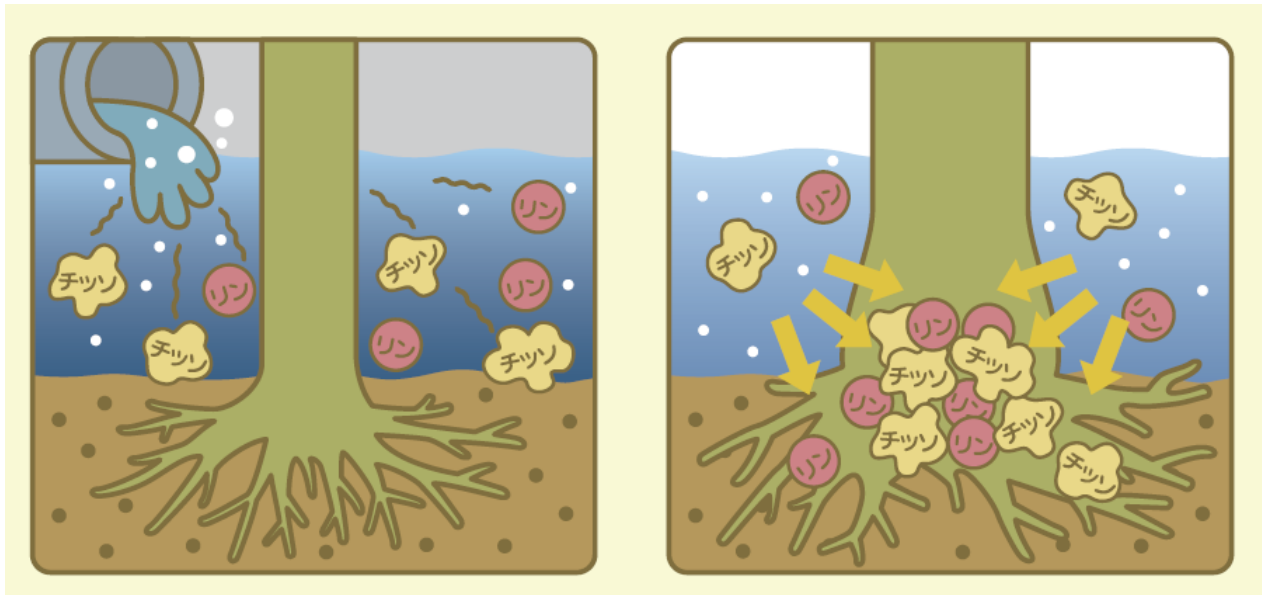


サンショウモ



トチカガミ

水生植物は、生き物が生きていくのに必要な場所をあたえています。魚や野鳥のすみ場やかくれる場所ばしょとなっています。ヨシやマコモには水をきれにするはたらきすいしつじょうかきのう（水質浄化機能）があります。



① 流れてきた水がくきにふれると、よごれがしずんでたまります。<sup>すいせい</sup>水生植物がたくさんはえている場所では、よごれがたくさんとれます。<sup>しょくぶつ</sup>

② <sup>すいせいしょくぶつ</sup>水生植物の根やくきは、しずんでたまったよごれの中から、チツソや<sup>えいよう</sup>りを<sup>えいよう</sup>栄養としてたくさん<sup>きゅうしゅう</sup>吸収します。

この他、<sup>すいせいしょくぶつ</sup>水生植物のくきには、小さな生き物がくっついていています。これらの生き物は、水の中のよごれを<sup>ぶんかい</sup>分解して、水をきれいにしています。

※ チツソとりんとは、どちらも植物の成長に必要な<sup>えいよう</sup>栄養です。ただし、水中でふえすぎると、アオコの大発生<sup>だいほっせい</sup>につながるなど、水がよごれる原因<sup>げんいん</sup>となります。

\* その他学習資料 霞ヶ浦環境科学センター・霞ヶ浦河川事務所